



IBSFスケルトンランナー検査手続書

規則

10.8.2 ランナー（総則）

IBSFのカレンダーに掲載されている全てのIBSF公式競技大会（オリンピック冬季競技大会、シニア世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、コンチネンタル選手権大会、ワールドカップ、インターコンチネンタルカップ、ヨーロッパカップ、北アメリカカップ）では、IBSF標準ランナー（標準材）のみが認められている。

IBSFのジュリーやマテリアル委員会は、ランナー鋼の真偽をいつでも検査できる。ランナー鋼の真偽を立証するため、検査には、ランナー材の組成分析及びランナー鋼の硬度検査を含めてもよい。

原材料の除去によるIBSF標準ランナーへの幾何学的な変更（IBSF標準ランナーを切削して形状を変えること）のみが認められている。いかなる形であれ、材料（ランナーブロック及びランナーポストを除く）を付加することはできない。

あらゆる推進力の使用は禁じられている。

同一日の競技滑走間のランナーの交換は、損傷があり、ジュリーに承認を得た場合のみ認められる。

ジュリーの裁量権において、ランナーはいかなる時でも、特殊装置を使用する検査を受けることがある。不確定なものが検出された場合、ランナーを押収し、更なる検査のために専門研究機関に送付してもよい。

冬季オリンピック競技大会及びシニア世界選手権大会においては、競技の前に全面的検査が行われる。

10.13 ランナークリーニング

ランナーは、IBSF支給の特殊洗浄剤により滑走の前に取り扱われ、清拭される。

IBSFは、ランナー検査手続書を公表する。ランナーが手続書に定められた範囲内にあてはまらないと判明したならば、選手はジュリーからペナルティーを与えられることがある。ジュリーは、この規則の8.10項に示されたペナルティーを利用できる。

12.8 ランナー

- ・ランナーブロック及びランナーポストは、ランナーに溶接されていなければならない。
- ・ランナーは、ランナーサポートに直接取り付けられなくてはいけない。
- ・すべてのランナーは、IBSFにより指定された一様な鋼材である一つの部品から製造されていなければならない、硬度 280 ブリネル (HB) を越えてはいけない。鋼材は、IBSF指定工場により生産され、配布される。



- ・鋼材は、直径 16mm(許容誤差 h9) 、長さ 1000mm (許容誤差-0/+50) の磨かれた円形の棒として供給される。鋼材は常に刻印がされており、この刻印はランナー上に常時維持されていなくてはならず、いかなる方法で変化してもいけない。
- ・物理的特性 (*) あるいは鋼材の組成または構造の局所的な変動のみを引き起こすものを含め、すべての種類の処理は禁止されている。
- ・表面被覆や塗装は認められない。
スチールランナー本体の直径は、ランナーサポートとの接合部とランナーポストまでの全長にわたって 16mm でなければならない。マイナスの許容誤差は 0.80mm とする。
- ・溝及び接地面 (milled areas) は、トラックの氷面の過度の損傷を避けるような形になっていなくてはならない。溝及び接地面の深さは、氷面から測って、2mm を超えてはいけない。
- ・ジュリーの命令により、ランナーは、手続書に従い、詳細検査のために没収されることがある。

(注: (*) 「物理的な」とは、特定用語例えば、「機械的な」、「摩擦学の」、「電磁気の」、などを含む全体的な用語として理解すること。

ランナー検査手続 (会場で競技前) :

- 1 特殊ランナー洗浄液は、マテリアル検査官あるいは明確に指示を受けた役員によってランナー表面を洗浄するために使用される。ランナー全体に沿った 3 回の拭き取り及び溝の内側の 3 回の拭き取りが、各ランナーに行われ、常時それぞれのそり用に新しい拭き取りを使用する。
- 2 鋼材の組成 (検査)
- 3 I B S F スタンプの検査
- 4 直径の検査
- 5 規則に沿って、試滑走を含めたランナー温の検査
- 6 ランナーを特殊洗浄液で清拭
- 7 1 の工程は、その日の各滑走の前に繰り返される。
- 8 滑走中の損傷のためランナーを変更する場合、1 から 6 の工程を行わなければならない。
- 9 アイスボックス実施の場合、ランナーは、I B S F メンバーあるいは委任された役員によって、実施後再び清拭されなければいけない。

公式 I B S F 大会 1 回ごとのランナー検査手続 (大会後) :

大会後、以下の検査が行われる :

無作為の硬度試験。 (内部データ収集用)

I B S F ジュリーの裁量により付加的な検査が指示される。



直径の検査

IBSFスタンプの検査

鋼材の組成（検査）

ランナーがランナー検査で失格となった場合：

この検査書のいかなる段階においてもランナーが合法である証拠を示せなかった場合、IBSFマテリアル検査官の助言を受けたIBSFジュリーは、選手にペナルティを課すことができる。さらなる結果として、IBSFスタンプの除去が行われることがある。

ジュリーの裁量により、ランナーはいつでも特別な機器を使用して検査できる。結果が出ない場合は、ランナーを押収し、専門の研究所に送付し、さらなる検査をすることができる。